

もともと出版社に勤めていましたが、なぜかふらりと(?)、働きながら大学院へ。そのうち、研究が面白くなって、10年勤務した会社を退職し、この道に入りました。研究分野は、メディア史・歴史社会学・ナショナリズム・日本近現代史。趣味は、戦争映画・任侠映画の鑑賞(趣味なのか仕事なのか不明)、旧車に乗ること(ただし、高速でいきなりクラクションが鳴り出すなどのトラブルが続出したため、現在はふつうの車に甘んじています)。

### 1. 専門演習の目標

われわれは8月15日を「終戦の日」として記憶している。だが、64年前のその日に「終戦」したわけではない。ポツダム宣言受諾は8月14日、全軍への停戦命令発令は8月16日、降伏文書調印は9月2日である。にもかかわらず、なぜ、そして、いつから、8月15日は「終戦の日」と認識されたのか。また、みなさんは学級文庫や図書室で『はだしのゲン』を読んだことがあるだろう。だが、マンガであり、「グロテスク」な描写も少なくない同書が、なぜ学校に蔵書されているのか。このように、「過去」を紐解くなかで、しばしば「常識」の意外な裏側が浮かび上がってくる。この演習では、メディア史・歴史社会学の観点から、われわれの「常識」が、どのように創られていったのか、そこにはいかなる社会的力学が働いていたのかを考えていきたい。

### 2. 専門演習で扱う課題と内容

[扱う時代区分]

・戦前・戦後および現代……「昭和」「平成」のほか、明治期・大正期を扱ってもよい。

[考察対象]

・戦争の記憶……戦争体験(論)、戦争映画、戦争文学、戦争の語り  
 ・思想・知……ナショナリズム、戦後思想、女性学、沖縄学 etc.  
 ・記憶・表象……戦争の記憶、異文化イメージ、ジェンダー表象 etc.  
 ・メディア・大衆文化……出版・映画・広告・プロパガンダ・マンガ・新聞・博覧会・観光 etc.

[問題関心]

・社会的アイデンティティ(ナショナリティ(国民意識)、植民地主義、グローバリズム、ジェンダー/セクシュアリティ等)は、どのように構築され、変容したのか。  
 ・われわれが自明視している認識(戦争の語り・歴史認識・家族観など)はどのように創られたのか。そこにはいかなる社会背景があったのか。

### 3. 授業の進め方・内容

・3回生前期……メディア史・近現代史・社会学理論に関する「知的におもしろい!」と思える(が、しかし重厚な)書物の輪読  
 ・3回生後期……各自の研究テーマの立案。「企画」としておもしろいか、焦点を絞り込んでいるかということについてディスカッションする一方で、史資料の収集・読み込みを行う。あわせて、関連理論書の講読は前期に引き続き実施。  
 ・4回生前期……卒業論文作成に必要な史資料を入手・分析し、どんな「意外性=おもしろさ」があったのかについて、討議していく。  
 ・4回生後期……卒業論文を完成させる。  
 ※なお、この演習では全体を通じて、「書く」というスキル、すなわち、「おもしろさ」と「説得力」をそなえた文章作成力の向上を重視します。

### 4. 必要とする知識

・メディア史・近現代史・社会学に興味があること  
 ・「歴史」の知識は問わない(演習の中で学んでいけばよい)。ただし、「過去」との対比で「現在」を捉え返すことに知的関心を持てること。

### 5. 関連する分野・科目・知識

「現代メディア史」「広告文化論」「メディアと現代文化」のいずれかの受講経験があることが望ましい(必須条件ではないですが)。

### 6. テキスト・参考書・機材(受講生が標準的に持つもの)

授業で扱う文献は未定だが、メディア論・社会学の理論書、メディア史・近現代史の研究書・概説書で「おもしろい!」と思えるものを多く扱う。参考になりそうな本は次の通り。  
 小熊英二『<民主>と<愛国>』新曜社  
 福間良明『戦争体験の戦後史』中公新書、『「反戦」のメディア史』世界思想社  
 高田里恵子『学歴・階級・軍隊』中公新書  
 佐藤卓己『歴史学』岩波書店  
 竹内洋『教養主義の没落』中公新書  
 岡真理『記憶/物語』岩波書店  
 橋川文三『昭和ナショナリズムの諸相』名古屋大学出版会  
 丸山眞男『丸山眞男セレクション』平凡社ライブラリー  
 吉見俊哉『親米と反米』岩波新書  
 山口誠『グアムと日本人—戦争を埋立てた楽園』岩波新書  
 P・ブルデュー『ディスタンスシオン』藤原書店  
 B・アンダーソン『想像の共同体』NTT出版  
 G・モッセ『大衆の国民化』柏書房

### 7. 独自に付加する選考方法

面接を行う(選考書類を提出後、必ずメールで福間に面接日時を問い合わせてください。アドレスは、yfukuma@ss.ritsume.ac.jpです)。

### 8. 受講生に望むこと

・この演習のテーマは「読む・書く・企画する」。そのなかでも、もっとも基礎となるのが「読む」。演習では、「お勉強」の本ではなく、知的刺激に満ちた本を多く取り上げます。  
 ・これまでの読書量は問いませんが、「これから頑張って良書をたくさん読みたい!」という強い意志があることが、受講の条件です。  
 ・このゼミでは、4回生時に卒論を書くことを履修の前提とします(自らの成長のためにも、卒論を書く「権利」を行使してほしいので)。応募の際には、その点、ご留意ください。  
 ・ゼミ見学を希望の方は、事前にメールにてご連絡ください。  
 ・私の授業用のHP (<http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/>)も参考にしてください。